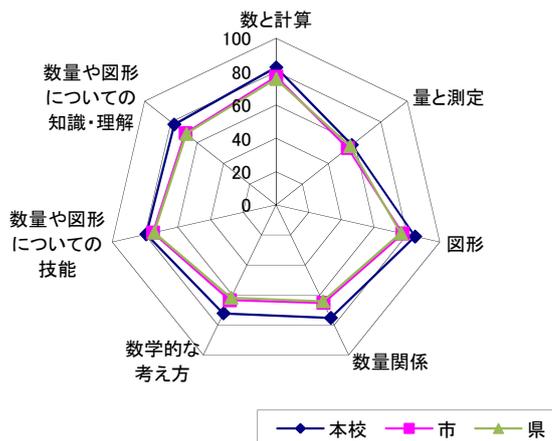


宇都宮市立今泉小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	82.6	77.0	75.6
	量と測定	57.8	54.8	56.5
	図形	85.0	77.4	76.3
	数量関係	75.3	65.3	64.3
観点	数学的な考え方	72.4	63.5	61.9
	数量や図形についての技能	79.3	75.2	74.5
	数量や図形についての知識・理解	77.6	69.1	68.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本校の平均正答率は県の平均を7ポイント、市の平均を5.6ポイント上回っている。 ○全体を通して正答率が高く、基礎・基本の定着がうかがえる。	・学習した内容はほぼ身に付いていると思われるが、わり算では、商に空位があったり余りがあったりすると正答率が下がる傾向にあるので、繰り返し復習させ、より確実な定着を目指したい。
量と測定	○本校の平均正答率は県の平均を1.3ポイント、市の平均を3ポイント上回っている。 ●身近にあるものの面積を推察する問題では、県の平均を上回っているものの、正答率が十分であるとは言えない。 ●正方形の面積を求める問題では、正答率が6割程度に留まり、十分に定着しているとは言えない。	・基本的な考え方や基礎となる知識を問う練習問題に取り組ませることで、学習内容が確実に身に付くように支援していきたい。 ・学習問題を日常生活と関連づけることができるような授業を展開し、学習内容と日常生活の関連に気付かせ、学習意欲の向上と学習内容の定着を目指したい。
図形	○本校の平均正答率は県の平均を8.7ポイント、市の平均を7.6ポイント上回っている。 ○展開図に関する問題では、正答率が9割を上回っており、十分に理解していることがうかがえる。	・作図する技能は十分に身に付いていると思われる。今後も児童一人一人に合わせた支援を継続していきたい。 ・具体物を用いた学習活動を行うことで学習内容を定着させることができたと考えられる。今後も現在の取り組みを継続していきたい。
数量関係	○本校の平均正答率は県の平均を11ポイント、市の平均を10ポイント上回っており、他の領域よりも県や市と比べ高い正答率である。 ●●折れ線グラフの目盛の取り方から、グラフに関する記述が正しくないことを説明する問題では、県の平均を上回ってはいるものの、正答率は十分であるとは言えない。	・複数のものを関連付けたり比較したりすることが苦手な傾向にある。基礎基本のみならず、比較や関連付けも意識した授業展開を心掛けることで児童を支援していきたい。